

平成 29 年度
社会福祉法人ファミリーケアサービス
事業報告

目 次

事業報告

社会福祉法人ファミリーケアサービス	…p3
すこやか横手	…p3 ～ p6
特別養護老人ホームすこやか横手	
ショートステイすこやか横手	
ケアハウスすこやか横手	
老人介護支援センターすこやか横手	
すこやか横手居宅介護支援センター	
デイサービスセンターすこやか横手	
すこやか横手ホームヘルパーステーション	
すこやか大雄	…p6 ～ p7
特別養護老人ホームすこやか大雄	
ショートステイすこやか大雄	
老人介護支援センターすこやか大雄	
すこやか森の家	…p7 ～ p8
特別養護老人ホームすこやか森の家	
ショートステイすこやか森の家	
デイサービスセンターすこやか森の家	
シルバードームいきいきの郷	…p8 ～ p10
特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷	
ショートステイシルバードームいきいきの郷	
デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷	
増田町居宅介護支援事業所	
増田町在宅介護支援センター	
すこやか館合	…p10 ～ p12
特別養護老人ホームすこやか館合	
ショートステイすこやか館合	
小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合（介護予防）	
居宅介護支援事業所すこやか館合	
障害児通所支援事業	…p12
県南愛児園「ドリームハウス」	…p12 ～ p13
横手市サンハイム	…p13
障がい者支援施設「ひまわり社」	…p13

事業報告（統計資料）

すこやか横手	…p16 ～ p19
すこやか大雄	…p20 ～ p21
すこやか森の家	…p22 ～ p23
シルバードームいきいきの郷	…p24 ～ p26
すこやか館合	…p27 ～ p29
障害児通所支援事業	…p30
県南愛児園「ドリームハウス」	…p31
横手市サンハイム	…p32
障がい者支援施設「ひまわり社」	…p33

平成29年度社会福祉法人ファミリーケアサービス事業報告

1. 社会福祉法人ファミリーケアサービス

社会福祉法人制度改革（社会福祉法等の一部改正）にしたがい、評議員会（議決機関）、理事会（意思決定機関）を設置し、経営組織のガバナンスを強化する体制とした。また、定款・役員名簿・役員報酬規程の公表、社会福祉充実残額の算定と報告等、事業運営の透明性に関する事項も実施した。平成29年11月の横手市による指導監査では、大きな指摘事項はなく、概ね適正に対応ができてきたことが確認できた。

すこやか横手およびいきいきの郷の大規模改修工事は、事故もなく、計画に従って実施できた。

法人セミナーでは、子どもを取り巻く現状をテーマとして、地域における子ども食堂の活動等を話題提供し学んだ。社会的に関心の高い内容であったため、例年より多くの一般参加者を得て、開催することができた。

介護サービス事業所の質の向上、人材の確保・育成を目的とした介護サービス事業所認証評価制度への参加宣言を行い、また研修に参加して認証に向けた準備を進めた。

2. 特別養護老人ホームすこやか横手

施設サービス計画に基づく取り組みについて、課題解決に向けた具体的展開に至らないケースも散見したが、継続的实施に結び付いたケースや、計画の定期的評価の形は構築されてきている。

適切な医療対応による最終的入院率軽減の課題について、複数の医療依存度の高い入居者へ留意した対応を心掛けたが、入院率軽減までには至らなかった。職員のキャリアに応じた研修体系の再整備・研修参加率等の確保については、体系再整備までは至らなかったが、研修機会確保はある程度できた。

リスクマネジメントについて、具体的展開の理解まで至らない面もあったが、都度のインシデントアンケート記入等の報告の形は定着してきている。

実習生・ボランティア等の受け入れによる気付き共有について、互いに明確な気付きを得られるまでには至らなかったものの、受け入れは円滑に行われた。

身体拘束及び虐待防止について、必要な対応及び、内容の検討や職員の意識を確認する機会も作られたため、大きな問題に進展する事なく推移した。

施設内での行事实施は、行事時における職員の深い関わりの部分に課題が残ったものの、開催の継続性は保たれていると評価できる。

提供目標と実績（定員50名）

目標	年間延べ17,520人（48.0人／日	稼働率96.0％）
実績	年間延べ17,112人（46.9人／日	稼働率93.8％）

<要因>

長期及び繰り返し入院による空床期間や、同時期における複数の退所及び、優先すべき行事と調整時期の重複にて、新規入所調整に時間を要す事もあった。

3. ショートステイすこやか横手（介護予防）

安心、安全、快適な生活を約束する施設を重要目標として、今年度も事業を運営してきた。日々のコミュニケーションから利用者の笑顔を引き出すことができ、その面は目標に近づくことができた。ただし、年間通しての行事やレクリエーション活動等については職員体制上の問題で計画を満たすまで実施するには至らなかった。

安全な生活の提供のため、リスクマネジメント委員会の活動活性化や、インシデントアンケートを活用し組織的な安全管理を行っていくことも重点課題とし、取り組みにあたることで気づきの視点や意識の向上はあったと言える。ただし、時に同じようなヒヤリハット報告やインシデントアンケートによる報告が有り、更なる向上を次年度以降も図る必要がある。

提供目標と実績（定員20名）

目標	年間延べ6,716人（18.4人／日	稼働率92.0%
実績	年間延べ6,715人（18.4人／日	稼働率92.0%

<要因>

スムーズな利用調整と特養の空床利用したことにより、ほぼ目標を達成することができた。

4. ケアハウスすこやか横手

自主性を尊重し日々の生活が“生き生きとした時間”が持てるように家族や各関係機関との連携、協力のもとで医療・介護ニーズに合わせたサービス等、相談調整を実施する事ができた。また、今年度は入退居者各2名で現入居者15名を維持、平均年齢が83歳で平均介護度2、平均入居期間が4～5年、筋力低下・認知症等進行が懸念されつつも認知症予防への取り組みや筋力低下予防を実施し活動的な時間の提供ができた。

また、芸能ボランティア・家族・地域等との連携で、特養合同行事や外出支援を行い地域とのつながりが持つ事ができた。

今後も、自立支援への取り組みを行いなお一層充実させながら健康長寿を目指して行きたい。

5. 老人介護支援センターすこやか横手

地域の高齢者やその家族だけではなく、高齢者以外の方々に対しても総合的な相談に応じ、関係機関と連携を図りながら各種サービスの紹介や手続代行を行うことにより、相談者が必要とするサービスに繋げることができた。

地域ケア会議、地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会等、各種会議に出席

し、情報の共有や専門知識の習得を行い、あらゆる地域ニーズに対応できるよう努めた。

また、「支援センター便り」の発行や「地域包括ケアシステム構築セミナー」への参加により支援センターの周知活動を行った。

これからも地域と包括支援センター、行政と住民のパイプ役として、誰もが安心して暮らし続けることのできる「地域づくり」をすすめていくことを、課題としている。

6. すこやか横手居宅介護支援センター

要介護状態となった利用者が自宅や地域で安心した生活を送ることが出来るよう家族や地域との関係作りを積極的に行い、地域での様々な資源と利用者とを結び付け、その方が望む生活の実現への支援を行うことができた。

困難事例に対しては地域包括支援センター等との連携を強化することにより迅速な対応と解決策を見出すことに繋がった。

また、医療系ニーズの高い利用者については医療機関や医療系サービスとの連携を密にし、情報共有や専門的見地からの意見を得ることで在宅生活を支援することができた。

しかし、利用者の高齢化や家庭環境の複雑化、入院期間の短縮等により個々のケースへの対応が多く必要となり、今後の課題となっている。

提供目標と実績

目標	介護給付管理	月 1 7 0 . 0 件	予防	1 5 件
実績	介護給付管理	月 1 6 1 . 5 件	予防	2 3 件

<要因>

新規届け出件数については、包括支援センターからの相談ケースを積極的に受け入れ実績向上につながっている反面、死亡や病院から直接の施設入所の希望など給付管理の対象にならないケースも多く、結果目標達成には至らなかった。

7. デイサービスセンターすこやか横手

(介護予防通所介護に相当する第1号通所事業)

利用者・家族・地域とのつながりを大事にしながら信頼関係を築き、満足度が向上してもらえるようサービスの提供に努めた。

ボランティア活動においては、世代を超えた交流を図ることができ、ケアハウス入居者との定期的な合同行事も行ない笑顔の多い時間を過ごす事ができた。

また、利用者が安心・安全・快適に過ごすことができるようサービス内容の向上に取り組むため、内部学習会等でスキルアップを目指して来た。

しかしながら、職員の確保が図れなかった事によりサービス内容を充実させる取り組みが今後の課題のひとつになった。

提供目標と実績（定員 30 名）

目標 年間延べ 6, 430 人（17.7 人／日 利用率 58.8 %）

実績 年間延べ 6, 426 人（17.6 人／日 利用率 58.7 %）

<要因>

前年度実績に基づき目標を設定した。そのため目標に近づく結果となった。しかし、複数回利用の方がショートステイを長期間利用されたことや、人員体制が整わず新規利用者の獲得に制限があったこと等により、利用率を伸ばすことができなかった。

8. すこやか横手ホームヘルプステーション

（介護予防訪問介護に相当する第 1 号訪問事業）

介護職員不足の解消と経営改善への対応として、平成 29 年 8 月 1 日から事業を休止する。また、休止に際して、新たな事業所にスムーズに移行できるよう利用者・家族・介護支援専門員への説明に努めた。

提供目標と実績

年間目標件数 45 件

実績件数（4～7 月期） 20 件

<要因>

事業休止による。

9. 特別養護老人ホームすこやか大雄

年間を通じて介護職員の離職が多く、安定した職員体制が築けず、目標にあげたユニット職員間の連携及び多職種協働によるサービスの提供は課題が残った。ただし、入居者に対するサービスの質は落とさずに、本人・家族の意向を取り入れながら個別ケアに結びつける事ができた。

今年度も入居者 4 人を嘱託医、家族との連携のもと、安らかに看取ることができ、職員一人ひとりが学ばせて頂く事も多かった。

また、めでたく百歳を迎えられた入居者がおり、家族様にも参列して頂き、ささやかながらお祝いのセレモニーが実施できた事も大きな経験となった。間もなく百歳を迎えられる方もいらっしゃる、人生の節目に立ち会える事は、我々にとっても貴重な財産である事を大切にしていきたい。

提供目標と実績（定員 50 名）

目標 年間延べ 17, 520 名（48.0 名 利用率 96.0 %）

実績 年間延べ 16, 749 名（45.9 名 利用率 91.8 %）

<要因>

月平均約 3.8 名の入院者と、年間を通じて退居者が 17 名（月平均 1.4 名）と多かった事や入居決定後の辞退も続いた事により。

10. ショートステイすこやか大雄(介護予防)

重点課題の一つである認知症の方への関わりについて、内部研修を行い、認知症への理解を深めた。利用日数が増加する定期利用者が増え、ご家族・居宅事業所との情報共有に努めた。

また、季節ごとの行事を行いながら、利用者間の交流の機会が得られた。

提供目標と実績（定員10名）

目標 年間延べ3,650名（10.0名 利用率100.0%）

実績 年間延べ2,754名（7.6名 利用率75.2%）

<要因>

介護職員の離職が多く、安定した職員体制が築けず、年度途中より、新規利用者の受け入れを制限したため

11. 老人介護支援センターすこやか大雄

相談窓口業務において、施設入所関係がほとんどであり、在宅介護に関する相談は少ない状況にあった。小ネットワーク会議等へ参加し地域状況の把握に努めた。また、個別ケースの訪問については、行政からの依頼等を受け、対応を行っているが、計画的に実施が出来なかった。

活動実績

内 容 大雄地区ケア会議出席(毎月開催)
大雄地区小ネットワーク会議出席
(大雄地区16ヶ所実施 / 11ヶ所へ出席)
大雄支えあいネット(大雄地域第2層協議体)構成員として参加

相談実績 相談件数：159件(施設入所関係157件、その他2件)

12. 特別養護老人ホームすこやか森の家

8月よりユニット型特養へ移行したことで利用料金が上がり、新規入居調整において他施設との比較から敬遠されることがあり新規入居までの期間を要したが、これまでの入居者からも敬遠されることもなく結果として収入が増えたことは望ましく、一年を通して入院者及び退去者が少なく、目標には届かなかったが一定の利用率を維持することができた。

また、末期癌の利用者を受け入れてから3か月程度で永眠されたが、現在の特養の存在意義としては必要な対応であったと考えている。今後も中重度の方々の受け入れ、並びに終末期ケアの提供により地域において必要な役割を果たしていきたい。

提供目標と実績（定員30名）

目標 年間延べ10,676名（29.2名/日 利用率97.5%）

実績 年間延べ10,514名（28.8名／日 利用率95.5％）

<要因>

ユニット型特養移行に伴い利用料金に対する敬遠により、新規入居調整が難航したため。

13. ショートステイすこやか森の家（介護予防）

安定した利用調整が維持できない期間も見られたが、年間を通し、中重度の方や認知症により日常的に付き添いを要す方々の受け入れにも対応し、地域のニーズに応じて行けるよう、職種間の連携を密にしながらサービスを提供することができた。今後も、サービス提供側の内部調整等を円滑に図りながら役割を果たしていきたい。

提供目標と実績（定員20名）

目標 年間延べ6,756名（平均18.5名／日 利用率92.5％）

実績 年間延べ6,477名（平均17.8名／日 利用率88.7％）

<要因>

定期利用者の施設入所や体調不良による入院、死去に伴うことが要因として挙げられる。また、施設内でインフルエンザが流行ったことによる利用率低下も要因となっている。

14. デイサービスセンターすこやか森の家（介護予防）

職種間の連携により職員不足の中で上半期の利用率上昇へ繋げることができたが、11月に入り複数曜日利用者の永眠、長期入院、施設入所等が増え利用率を下げてしまった。今後は介護職員だけではなく看護職員の体制を整え、中重度の利用者も安心して受け入れることができる施設へと展開しながら、利用率の上昇と収入の増加へ繋げたい。

提供目標と実績（定員25名）

目標 年間延べ 6,387人（約17.4名／日 利用率70.0％）

実績 年間延べ 6,068人（約16.6名／日 利用率66.5％）

<要因>

送迎範囲の拡大やホームページによる外部への情報発信、居宅支援事業所への働きかけ、迅速な対応等で、新規利用者は増加しているが、永眠等による利用廃止者も前年に比べ急激に増えたため。

15. 特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷

職種間連携のもと社会的、経済的困窮者の受け入れる事ができた。また急病に際し嘱託医、協力病院との密な連携により施設内において治癒へと完結できたケース

が多かった事で入院率を抑え、利用率目標の95%を上回る事ができた。
恒例の増田高等学校書道部による書道パフォーマンスをはじめ、各団体の慰問を招き、また小中学校・高校の職場体験学習や介護実習、婦人会及び傾聴ボランティア等を積極的に受け入れる事で地域との関わりを強く結ぶ事ができた。
また3月にインフルエンザ罹患者が発生したが、感染拡大対策が奏功し、罹患者は入居者6名職員2名で抑える事ができた。

提供目標と実績（定員50名）

目標	年間延べ17,337人	(47.5人/日)	利用率95.0%
実績	年間延べ17,808人	(48.8人/日)	利用率97.6%

16. ショートステイシルバードームいきいきの郷（介護予防）

職種間連携のもと、利用者の家庭での状況や緊急性を考慮し介護サービスの提供および受け入れを行った。

3月、特養の感染症発生に伴い2週間の受入中止を行ったためその影響が出て目標を達成に至らなかった。

次年度は利用率だけでなく、職種間、家族等の連携を密にしさらなる利用者の満足度を意識した質の高いサービス提供を行っていきたい。

提供目標と実績（定員11名）

目標	年間延べ3,623人	(9.9人/日)	利用率90.0%
実績	年間延べ3,391人	(9.3人/日)	利用率84.5%

17. デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷（介護予防）

今年度は運動会（6月）、流しそうめん（8月）等の季節行事や生活機能の維持を目的とした体操や季節風呂等利用者の楽しみを広げる事で、利用者間での話題が増える等、利用者・家族からも好評だった。またスポット利用の受け入れ、在宅酸素など医療依存度の高い利用者や重度の認知症利用者の受け入れも行ってきたことで、利用の問い合わせ・相談が多く、利用者・家族のニーズに応じたサービスを展開できた。

提供目標と実績（定員18名）

目標	年間延べ3,627人	(11.7人/日)	利用率65.0%
実績	年間延べ4,219人	(13.6人/日)	利用率75.5%

18. 増田町居宅介護支援事業所

平成29年度も目標担当利用者数を達成することができた。平成29年度からは特定事業所加算（質の高いケアマネジメントを実施している事業所を評価するための加算）を算定し、より効果的なケアマネジメントを提供できるよう定期的に事例検討や、他法人との勉強会、研修会企画等を行った。

また、地域貢献事業の一つである「身近な福祉の出前講座」では、地域のいきいきサロンや城南高校銀杏同窓会増田支部から依頼を受けてケアマネジャーを講師として派遣した。

次年度もすでに3つのいきいきサロンから依頼を受けており、ケアマネジャーの業務のみならず、出前講座を通じ地域にある集いに出向いていくことで、地域交流をしながら福祉力や介護力の醸成をしていきたい。

19. 増田町在宅介護支援センター

地域の高齢者等から、様々な相談に総合的に応じ、必要に応じた各種の保健・福祉サービスが受けられるように関係機関と横断的連携により住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように支援を行った。また、相談窓口自ら相談することができない住民に、積極的に地域へ出向いていながら、行政や社会福祉協議会、病院等と連携することで複合世帯ニーズ・孤立している世帯・経済的困窮者等の支援を行なった。

引き続き、横手市地域包括支援センターのブランチ（横手市からの受託事業）として、地域の要援護高齢者及びその家族の福祉の向上を図っていく。

提供目標と実績

目標 960人／年（3人）

実績 997人／年（3人）

20. 特別養護老人ホームすこやか館合

地域密着型の特養として、目標にも掲げている「地域との関わり」を大切にし、運営推進会議等にも力を入れ、施設運営に対する意見や地域のニーズ把握に取り組んだ。地域交流会や地域で開催する行事へも積極的に参加し、地域との関わりを持つことで入居者の楽しみにも繋がっている。

施設での日々のレクリエーションや個別外出に関しては、職員の深い関わりの部分に課題が残り、今後施設生活での楽しみの向上を図っていきたい。

提供目標と実績（定員29名）

目標 年間延べ9,894人（27.1人／日 利用率93.5%）

実績 年間延べ10,018人（27.5人／日 利用率94.6%）

<要因>

入居者の健康面も安定しており、長期の入院者が少なかったこと、また、入退所件数も例年に比べ半数ほどで未契約率も抑えることができた。入所検討の時間がかかり、入所検討の調整面では課題が残った。

21. ショートステイすこやか館合

重点課題にも挙げている専門的サービスの提供を実施するために、施設外の研修

へ積極的に参加し、施設内研修では技術や知識の確認に努めている。また、事故防止の観点からも専門的な視点で分析をし、支援に対する気付きが増え事故を未然に防ぐことに繋がった。

障害者福祉サービスの受け入れも少数ではあったが利用があり、今後も相談支援事業所との連携を強化しながら、円滑に受け入れをしていきたい。

提供目標と実績（定員 20 名）

目標 年間延べ 6,640 人（18.2 人／日 利用率 91.0 %）

実績 年間延べ 5,389 人（14.8 人／日 利用率 73.9 %）

＜要因＞

長期利用の方の体調不良による入院や特養入所による減少、介護職員の不足により、利用を調整したことが要因として挙げられる。

22. 小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合（介護予防）

基本方針「楽しく、優しく、すこやかに」を職員信条として、目標である「安心できる地域生活の実現」に努めた。

重点課題「利用者が地域において多様な活動が出来るように支援する」については、地域交流会の開催時に、利用者共に参加することで交流を深めた。

ADL が低下された利用者や独居の利用者に対しては、訪問サービスや配食サービスを提供しながら、在宅生活継続への支援を行った。

提供目標と実績（登録定員 25 人）

目標 月間登録者数 18.0 人（利用率 72.0 %）

実績 月間登録者数 16.1 人（利用率 64.5 %）

〈要因〉

年度当初登録 16 名から開始し、入院・施設入所等により登録者数の減少がみられたが、退院後の再利用、地域からの紹介等により新規登録者が増加し、大幅な減少には至らなかった。

23. 居宅介護支援事業所すこやか館合

基本方針である「要支援・要介護状態の利用者やその家族が住み慣れた自宅や地域で心豊かな生活」が実現できるよう、ニーズを把握するとともに、地域包括支援センターや医療機関、サービス提供事業所等と連携を図りながら支援を行った。

重点課題の「更なる地域へ浸透」については、地域主体の事業や会議に積極的に参加し、事業所の周知に努めた。

利用者一人一人のニーズや環境に応じて、利用者の選択に基づき適切なサービスを効率的に提供するように努めた

提供目標と実績

目標 介護給付管理 月間 58.0 件

実績 介護給付管理 月間 68.7 件 介護予防支援計画 月間 4.9 件

<要因>

新規契約 12 件（うち介護予防 1 件）に対し、施設入所や永眠等による契約終了が 17 件（うち介護予防 2 件）だった。地域や病院からの相談や、現担当の家族等より紹介されたケースなど、毎月コンスタントに居宅依頼があったことから、目標達成に至った。

24. 障害児通所支援事業

平成 29 年度の在籍児童数は 59 名で、内訳は 6 歳児 21 名、5 歳児 21 名、4 歳児 11 名、3 歳児 6 名であった。新入園児は 18 名であった。今年度も保健センターからの紹介を主として前年度とほぼ同数の園児が入園した。

また、児童の発達支援はもちろん、保護者（主に母親）支援が必要なケースも年々増加しており、必要に応じて関係機関と連携をとり支援を行った。小集団での課題活動や指導では、一人一人の特性に応じたきめ細やかな対応ができるよう、個別支援計画の作成に重点を置くようにした。そのことにより、保護者との対話の機会も増え、問題や解決策を共有することがより可能になった。就学支援では横手市教育委員会・秋田県医療療育センターなどと連携を図り、児童の実態に合った就学先が選択でき、スムーズな就学につながるよう、保護者の不安や迷いに寄り添いながら支援を行った。「すすすくネットワーク」でも例年同様、地域の幼稚園や保育園との情報交換を行い、保育の場・療育の場双方でそれぞれの児童に効果的な支援が行えるような連絡調整を行った。参加職員も可能な限り複数とし、職員研鑽の場となるよう努めた。年 5 回開催した健康相談は、病気や健康に関する保護者からの質問等も活発で有意義な相談会となっている。

保護者が安心して療育を受け、豊かな生活を送れるよう、保護者の不安や心配に耳を傾けながら、職員全体で具体的な支援の提供に努めた。

25. 県南愛児園「ドリームハウス」

平成 29 年度は、本園 24 名、地域小規模児童養護施設 6 名、合計 30 名でスタートしたが、年度後半に 2 名の児童が家庭復帰することができた。また年度中に 3 名（他施設からの措置変更 2 名、在宅における養育困難 1 名）の入所もあったが、まだ入所率は厳しい状況である。短期利用において、ショートステイ延べ日数 62 日、緊急一時保護延べ日数 6 日という状況だった。入所率は減少傾向にあるが、入所してくる子どもは一人ひとり様々な課題を持っているので、施設機能の強化や職員の支援技術の向上が求められてきている。当園ではここ数年、各種委員会における勉強会や外部研修等を強化し、職員の支援技術の向上と資格取得が進み、多方面からの支援と子どもたちとの学びあいができるようになってきた。

今年度より里親支援専門相談員が配置され、事業の一貫として家庭生活体験事業を実施し、県南の里親さん宅へ 9 名の児童がお世話になっている。その他に、里親

サロンの開催や年2回のふれあい交流会を通し、里親さんのニーズや悩み等を聞きながら一緒に子育てすることができた。また、地域小規模児童養護施設が引越し、男女混合での生活が始まった。当初戸惑いもあったようだが、すぐに慣れ、地域の子ども達と公園で遊び、地域の方々に見守られながら子どもたちはすくすくと成長をしている。

今後は多様なニーズに対応できるよう、「新しい社会的養育ビジョン」を見据え、体制強化に努めたい。

26. 横手市サンハイム

平成29年度は、14世帯（定員20世帯）47名でスタートした。年度中4世帯の入所があり、自立支援計画の支援の基に3世帯が退所して地域で自立した生活を送ることができた。近年、自立支援計画に対する福祉事務所からの自立への指導が強まり、入所期間が短縮しているため、昨年度同様に在所世帯数の伸び悩みが続いている。

入所した世帯は、DV被害から一時保護され入所に至ったケースがほとんどであった。そのため、生活用品と家財道具の貸し出しや子どもの預け先、就労先を探す等生活基盤を作るところからの支援を行い、親子を支えてきた。更に、離婚や親権に関わる司法トラブル対応など支援は多岐に渡った。

平成29年度は、心のケアの充実を図るため、心理面と療育面に力を入れてきた。心理面は、心理療法担当職員を常勤させ、施設内カウンセリングを行うことにより心の安定につなげてきた。療育面は、特別支援を受ける児童の割合の増加に伴い、継続的な療育を正しく受けられるよう、家庭や関係機関と連携しながら切れ目のない支援を心掛けてきた。

今後も入居者が安心して安全な生活を送り、自信をもってから地域での自立した生活に向かえるよう職員の支援の質の向上に努めていきたい。

27. 障がい者支援施設「ひまわり社」

重点課題「文化活動を取り入れる」では、カラオケ同好会を結成し、毎月1回カラオケ店にて開催した。利用者には大変好評であった。

工賃アップの課題は、作業収入の総額が微増に対して、1人当たりの工賃は微減の状況であった。新たな作業を開拓できなかったことと、利用者が増えたことが、その要因である。

相談支援事業では、計画件数が順調に伸びた。しかし、相談支援専門員1名では限界の状況であり、体制の検討が必要である。

定員の課題に対しては具体的な検討ができなかった。定員を超過する日があり、運営基準上の観点からも早急な検討と対応が必要である。

資料内の用語について

※インシデント報告

事故、ヒヤリハット、苦情、不満、意見等の事例（インシデント）に関する報告。

※ヒヤリ・ハット

危険な目に遭いそうになって、ひやり（ヒヤリ）としたり、はっと（ハット）したりすること。重大な事故に発展したかもしれない危険な出来事。

施設別利用実績

区分	施設	定員	年間延利用数 (人)	1日平均 (人)	利用率 (%)
特養	すこやか横手	50	17,112	46.9	93.8
	すこやか大雄	50	16,749	45.9	91.8
	すこやか森の家	30	10,514	28.8	95.5
	いきいきの郷	50	17,808	48.8	97.6
	すこやか館合	29	10,018	27.5	94.6
計		209	72,201	197.82	94.7
ショートステイ	すこやか横手	20	6,715	18.4	92.0
	すこやか大雄	10	2,754	7.6	75.2
	すこやか森の家	20	6,477	17.8	88.7
	いきいきの郷	11	3,391	9.3	84.5
	すこやか館合	20	5,389	14.8	73.9
計		81	24,726	67.75	82.9
デイサービス	すこやか横手	30	6,426	17.6	58.7
	すこやか森の家	25	6,068	16.6	66.5
	いきいきの郷	18	4,219	13.6	75.5
計		73	16,713	47.84	66.9

資料1 すこやか横手

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成30年3月31日現在）

平均：男性 87.7歳 女性 87.7歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	0	0	1	0	0	2	4	0	0	7
女	1	1	0	2	8	11	11	6	3	43
合計	1	1	1	2	8	13	15	6	3	50

2. 入居期間別状況（平成30年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	3	1	0	1	1	1	7
女	10	6	2	5	6	14	43
合計	13	7	2	6	7	15	50

3. 要介護度（平成30年3月31日現在） 平均 4.18

	1	2	3	4	5	合計
男	0	1	1	0	5	7
女	0	3	9	9	22	43
合計	0	4	10	9	27	50

4. 退居理由（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	3	0	3
女	0	11	0	11
合計	0	14	0	14

5. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	157	3	5	89	255

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
40	10	5	37	22	11	50	4	13	3	60

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	544	528	516	545	583	571	588	608	562	566	512	592	6,715
平均介護度	3.19	3.33	3.3	3.31	3.46	3.51	3.56	3.64	3.48	3.38	3.42	3.24	3.40

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
3	23	1	0	25	52

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
24	3	2	3	4	0	2	0	0	0	14

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

ケアハウス

1. 入居・退去状況

①平均在籍期間（平成30年3月31日現在）

在籍年数	1~6ヶ月	1~2年	3~4年	4~5年	6~7年	8~9年	10年~	平均
人数	2	3	5	3	1	1	0	4.1

②年度内在籍数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数
男	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	5	41
女	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	137
計	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	14	15	178

老人介護支援センター

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	2	1	5	1	2	3	1	2	3	1	7	3	31
継続相談	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	5

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	0	2	4	2	0	2	1	0	1	0	0	0	12
電話	2	1	1	0	1	0	1	0	1	1	5	2	15
来所	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	2	1	9

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	2	3	0	1	1	2	2	2	2	1	6	3	25
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
各種申請代行	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	4
あんしんバトン	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
認知症	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	5

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	23.5	41	38	38	33	36	40	34	35	40	37	39	44	455
2	29.0	47	47	47	47	46	47	48	47	47	44	49	46	562
3	20.1	33	35	37	31	32	33	31	28	30	31	36	32	389
4	16.4	23	20	22	23	32	28	27	27	27	28	32	29	318
5	11.1	20	18	20	20	18	19	17	16	15	18	15	19	215
合計	100	164	158	164	154	164	167	157	153	159	158	171	170	1,939

（予防プラン・認定調査件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	14	14	18	22	29	26	26	26	26	24	26	25	276
認定調査	在宅	9	10	5	4	4	4	11	7	6	6	6	10	82
	施設	3	2	0	0	0	0	2	0	0	2	1	2	12
	合計件数	12	12	5	4	4	4	13	7	6	8	7	12	94

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	565	563	512	518	501	515	563	576	539	537	508	529	6426
平均介護度	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.4	2.5	2.4	2.44

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	29	1	2	3	35

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
11	4	0	0	0	4	7	0	0	0	8

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	1	0	0

ホームヘルプステーション

1. 介護給付・予防給付総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度総件数	46	45	44	45	45	44	41	40	32	27	27	28	464
29年度総件数	30	27	23	0	—	—	—	—	—	—	—	—	80

資料２ すこやか大雄

特別養護老人ホーム

１．年齢階層（平成３０年３月３１日現在）

平均：男性８２．８歳 女性８８．７歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	1	0	1	1	2	3	3	0	0	11
女	0	1	0	0	5	17	7	5	1	36
合計	1	1	1	1	7	20	10	5	1	47

２．入居期間別状況（平成３０年３月３１日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	5	1	1	0	1	3	11
女	5	7	7	2	5	10	36
合計	10	8	8	2	6	13	47

３．要介護度（平成３０年３月３１日現在） 平均 4.34

	1	2	3	4	5	合計
男	1	0	2	2	6	11
女	0	1	5	11	19	36
合計	1	1	7	13	25	47

４．退居理由（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	4	2	6
女	0	7	4	11
合計	0	11	6	17

５．インシデント年間集計（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
3	53	0	0	0	56

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
5	4	3	8	11	1	12	0	0	0	12

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	276	276	236	237	267	219	209	216	226	213	199	180	2,754
平均介護度	3.02	2.68	2.74	2.88	2.82	2.85	2.93	3.2	3.37	3.31	3.06	3.25	3.01

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	12	1	0	0	13

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
0	4	2	0	1	1	1	0	0	0	3

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	1	0	0

老人介護支援センター

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	19	18	13	11	11	6	15	15	12	15	14	10	159
継続相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
来所	17	18	13	11	11	6	15	15	12	15	14	10	157

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設入所	17	18	13	11	11	6	15	15	12	15	14	10	157
各種申請代行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あんしんボタン	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料3 すこやか森の家

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成30年3月31日現在）

平均：男性 87.4歳 女性 86.6歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	0	0	1	0	0	1	2	1	0	5
女	1	0	1	2	4	5	10	2	0	25
合計	1	0	2	2	4	6	12	3	0	30

2. 入居期間別状況（平成30年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	1	1	0	0	0	3	5
女	1	5	1	3	9	6	25
合計	2	6	1	3	9	9	30

3. 要介護度（平成30年3月31日現在） 平均 3.77

	1	2	3	4	5	合計
男	0	2	0	2	1	5
女	0	2	8	8	7	25
合計	0	4	8	10	8	30

4. 退居理由（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	1	0	1
女	0	2	0	2
合計	0	3	0	3

5. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	77	6	0	0	85

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
6	17	3	5	4	1	10	0	0	4	29

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
6	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	532	533	546	580	541	554	495	533	521	539	503	570	6,447
平均介護度	2.90	2.97	3.25	3.06	3.01	3.05	2.99	3.06	3.09	3.28	3.30	3.23	3.10

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
6	45	4	0	0	55

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
5	22	1	2	6	5	3	1	0	0	6

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
4	0	0	0	0

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	525	541	558	569	545	511	545	488	470	465	405	455	6,077
平均介護度	2.4	2.32	2.32	2.35	2.35	2.37	2.35	2.18	2.26	2.25	2.31	2.32	2.32

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	19	2	0	0	23

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
8	2	0	0	0	5	2	0	0	0	4

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	0	0	0

資料４ シルバードームいきいきの郷

特別養護老人ホーム

１．年齢階層（平成３０年３月３１日現在）

平均：男性 ８２．３歳 女性 ８８．３歳

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100～ 歳	合計
男	0	2	0	0	1	4	2	0	0	9
女	0	2	0	1	9	7	11	8	1	39
合計	0	4	0	1	10	11	13	8	1	48

２．入居期間別状況（平成３０年３月３１日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	3	0	3	1	0	2	9
女	7	4	7	6	3	12	38
合計	10	4	10	7	3	14	48

３．要介護度（平成３０年３月３１日現在） 平均 ４．５３

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	1	2	6	9
女	0	0	1	6	32	39
合計	0	0	5	8	38	48

４．退居理由（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	3	1	4
女	0	11	0	11
合計	0	14	1	15

５．インシデント年間集計（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
10	81	3	0	0	94

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外 れ 抜去 等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
9	0	2	21	8	8	44	2	0	0	0

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	306	299	305	285	278	309	293	292	314	280	285	145	3,391
平均介護度	3.6	3.8	3.6	3.9	3.3	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.6

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
4	60	3	0	0	67

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
13	1	1	3	1	1	16	1	0	0	30

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	27	19	22	21	22	19	20	19	22	24	24	23	24	259
2	35.4	27	27	30	28	28	27	28	28	30	30	29	28	340
3	20.7	15	14	14	14	18	18	17	17	19	17	18	18	199
4	8.2	8	9	8	8	5	5	5	5	6	6	7	7	79
5	8.6	6	6	5	7	8	8	8	7	8	8	7	5	83
合計	100	75	78	78	79	78	78	77	79	87	85	84	82	960

（予防プラン・認定調査件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	7	6	6	6	5	7	7	5	5	6	6	8	74
認定調査	在宅	4	4	5	3	2	3	5	4	5	3	9	4	51
	施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	4	4	5	3	2	3	5	4	5	3	9	4	51

老人介護支援センター

1. 相談件数 種別

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	6	2	4	6	2	6	4	9	9	1	2	9	60
継続相談	6	4	6	6	7	2	3	0	7	2	0	6	49

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	2	1	5	2	2	2	3	6	1	1	4	31
電話	9	4	7	5	7	6	4	4	10	2	1	11	70
来所	1	0	2	2	0	0	1	2	0	0	0	0	8

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	9	2	4	5	3	3	6	8	10	3	2	11	66
福祉事業	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療・入院	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	2	9
施設入所	2	0	6	3	6	1	1	2	0	0	1	2	24
各種申請代行	1	2	1	6	3	2	1	1	2	2	0	4	25
あんしんボタン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	6
高齢者虐待	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
その他	4	4	5	2	0	3	1	2	9	0	0	1	31

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	314	363	350	360	356	377	398	360	336	314	312	379	4,219
平均介護度	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6	2.7	2.6	2.6	2.5	2.4	2.3	2.4	2.51

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	21	2	0	38	62

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	2	2	0

資料5 すこやか館合

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成30年3月31日現在）

平均：男性 84.7歳 女性 90.8歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
女	0	0	0	0	3	8	8	7	0	26
合計	0	0	0	0	4	10	8	7	0	29

2. 入居期間別状況（平成30年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	1	0	1	0	0	1	3
女	7	8	6	1	2	2	26
合計	8	8	7	1	2	3	29

3. 要介護度（平成30年3月31日現在） 平均 4.07

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	1	0	2	3
女	0	1	5	12	8	26
合計	0	1	6	12	10	29

4. 退居理由（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	1	0	1
女	0	5	1	6
合計	0	6	1	7

5. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
27	43	4	0	0	74

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
3	7	5	9	5	9	4	0	1	7	20

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	1	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	496	481	528	550	486	412	391	361	386	415	417	466	5389
平均介護度	3.09	2.77	3.07	2.74	2.94	3.03	3.04	2.79	3.03	2.93	2.86	2.63	2.91

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
23	30	3	0	0	56

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
1	11	1	2	4	2	8	1	1	8	14

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
3	0	0	0	0

小規模多機能型居宅介護

1. サービス利用状況

利用実績内訳（介護給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	282	276	275	267	264	260	264	253	266	324	306	335	3,372
泊り	159	154	148	141	136	145	129	127	132	149	168	166	1,754
訪問	77	80	76	63	39	21	24	20	20	24	27	0	471

利用実績内訳（介護予防）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	67	76	74	55	72	73	73	86	86	83	84	94	923
泊り	14	18	16	5	1	0	0	0	2	0	0	1	57
訪問	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. インシデント年間集計（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	46	2	0	0	48

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外れ 抜去等	食事形態 確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移動 介助 ミス	その他 介助 ミス等
1 2	7	0	3	0	3	5	4	0	0	1 3

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	1	0	0

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	27.7	22	21	23	22	20	19	18	19	19	16	15	14	228
2	31.1	19	18	22	25	24	23	22	21	22	20	20	20	256
3	10.2	12	9	8	7	6	6	6	6	5	7	6	6	84
4	22.3	16	19	13	16	17	16	15	12	15	15	15	15	184
5	8.7	6	6	6	8	5	6	5	6	6	6	6	6	72
合計		75	73	72	78	72	70	66	64	67	64	62	61	824

(予防プラン・認定調査件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	4	4	3	3	4	5	6	6	6	6	6	6	59
認定調査	在宅	5	2	11	1	5	1	2	4	4	3	1	6	45
	施設	0	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	7
	合計件数	5	2	11	1	10	1	4	4	4	3	1	6	52

資料6 障害児通所支援事業

1.入退園状況（平成30年3月31日現在）

区分 性別	本年度入園 児童数	本年度卒退園児童数				計	次年度 へ移る
		普通	特学	支援学 校	その他		
男	45	8	6	3	0	17	28
女	14	4	0	0	0	4	10
計	59	12	6	3	0	21	38

2.地域別通園状況（平成30年3月31日現在）

地域 性別	横手	平鹿	雄物川	十文字	大雄	増田	山内	大森	計
男	24	3	4	7	0	2	1	4	45
女	8	1	1	3	0	0	0	1	14
計	32	4	5		0	2	1	5	59

3.年齢別表（平成30年3月31日現在）

年齢 人数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	その他	合計
合計	0	0	0	6	11	21	21	0	59

4.月別通園状況（平成30年3月31日現在）

月別 内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通園延べ人数	133	140	172	158	176	170	174	192	176	168	181	198	1,904
療育日数	18	20	22	20	19	20	21	20	19	17	20	17	233
平均人数	7.39	7.00	7.82	7.90	9.26	8.50	8.29	9.60	9.26	9.88	9.05	11.65	8.80

5.障害の種別（平成30年3月31日現在）

障害別 性別	肢体 重度	肢体 その他	知的障害 重度	知的障害 その他	広汎性 発達障害	ダウン症 その他	合計
男	1	0	1	40	3	0	45
女	0	1	1	11	1	0	14
合計	1	1	2	51	4	0	59

資料7 県南愛児園「ドリームハウス」

1. 平成29年度在籍状況（毎月1日現在）

本園

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	24	24	25	25	25	25	25	25	24	24	24

（平均24.5人／月 利用率81.6%）

分園（地域小規模児童養護施設きずな）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（平均6人／月 利用率100%）

2. 出身地別

横手市	5
秋田市	4
仙北市	1
大仙市	6
湯沢市	5
由利本荘市	4
山本郡三種町	0
潟上市	2
雄勝郡羽後町	1
仙北郡美郷町	2
合計	30

3. 入所理由別

養育困難	5
児童の問題行動による養育困難	2
実母精神障害による養育困難	2
継父による身体的虐待	2
実母による虐待（ネグレクト）	3
実母による身体的虐待	3
両親による虐待（ネグレクト）	4
両親による身体的虐待	2
実父による身体的虐待	4
棄児	1
養父による身体的虐待	1
合計	30

4. 学年別

	男子	女子	計
幼児	0	2	2
小1	1	0	1
小2	1	1	2
小3	2	2	4
小4	4	2	6
小5	1	1	2
小6	1	2	3
中1	2	0	2
中2	1	1	2
中3	1	2	3
高1	1	1	2
高2	0	1	1
高3	0	0	0
計	15	15	30

資料８ 横手市サンハイム

１．在所世帯の入所年度

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	計	平均
世帯数	2	0	0	1	1	4	3	1	4	16	3年2か月

２．地域別在所数

地域別	横手市	秋田市	仙北市	羽後町	湯沢市	大館市	計
世帯数	9	1	1	3	1	1	16
人数	31	3	2	7	5	2	50

３．入退所及び一時保護の状況

	入所世帯	退所世帯	一時保護
4月	1		1
5月			
6月	1		1
7月		1	
8月			
9月	1		
10月			
11月			
12月		1	
1月			1
2月	1		
3月		1	
合計	4	3	3

４．世帯構成

家族数	2人	3人	4人	5人	計
世帯数	7	3	3	3	16

５．母の年齢（人）

年齢	20代	30代	40代	50代	平均年齢
人数	4	6	5	0	33.3歳

６．児童の年齢（人）

	乳幼児	小1～3	小4～6	中学生	高校生	その他	合計
男	5	5	2	3	2	0	17
女	4	2	4	6	1	0	17
計	9	7	6	9	3	0	34

資料9 障がい者支援施設「ひまわり社」

1. 利用者延人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	160	159	181	167	170	163	162	157	174	142	153	179	1967
就労B	263	252	290	268	265	261	261	255	240	214	229	244	3,042

2. 利用者数（人）

性別	男性	女性	合計
生活介護	9	3	12
就労B	12	5	17

3. 障害種別（人）

	知的	身体	精神	合計
生活介護	12	5	0	17
就労B	12	5	2	19

※重複あり

4. 障害程度区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均区分
生活介護	0	0	3	5	2	2	4.3
就労B	—	—	—	—	—	—	—

5. 日中一時支援事業 利用者延人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日中一時支援	98	95	104	85	70	83	104	109	92	90	105	102	1,137

6. 相談支援事業利用者件数（新規・モニタリングを含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援（計画・児）	8	15	28	22	11	30	19	18	28	12	18	30	239

